

千葉県歯科技工士会
日技認定講師 松平 浩

抄録

「解剖で印象が見えてくる」

ラボサイドには上下の模型が送られます。しかし、人体において上下は一体です。模型には粘膜、筋肉、関節がありません。各歯科医の手技による仮定の粘膜はありますが柔軟度及び湿潤は不明です。そこで粘膜下から骨体までを理解することで模型を読み込むことが可能になってくるのではないのでしょうか。皆様とご一緒に検証してまいりましょう。

「咬合器には筋肉は無い」

咬合器は人体の咀嚼運動を表現するために様々な様式の咬合器が開発されています。しかし、それぞれの機器による側方運動は表現されますが筋肉によって行われる運動となっているのでしょうか。咀嚼はチューイングで行われます。咬合器のような側方運動で食事していますか。人にインザイザルピンはありますか。私のこの様な疑問を皆様と語ってまいりましょう。